

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **125** 号

令和5年 4・5・6月



重要文化財 聖観音菩薩立像 部分 (奈良・不退寺)

予告

浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念
みなみやましろ

聖地 南山城

－奈良と京都を結ぶ祈りの至宝－

7月8日(土)～9月3日(日)
東・西新館

特別展

特別公開

奈良・不退寺本尊 聖観音菩薩立像

3月21日(火・祝)～5月14日(日)
なら仏像館

名品展

珠玉の仏教美術

4月22日(土)～6月4日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年
なら仏像館

中国古代青銅器

通年
青銅器館

特別公開

奈良・不退寺本尊 聖観音菩薩立像

3月21日(火・祝)～5月14日(日)
なら仏像館 第7室

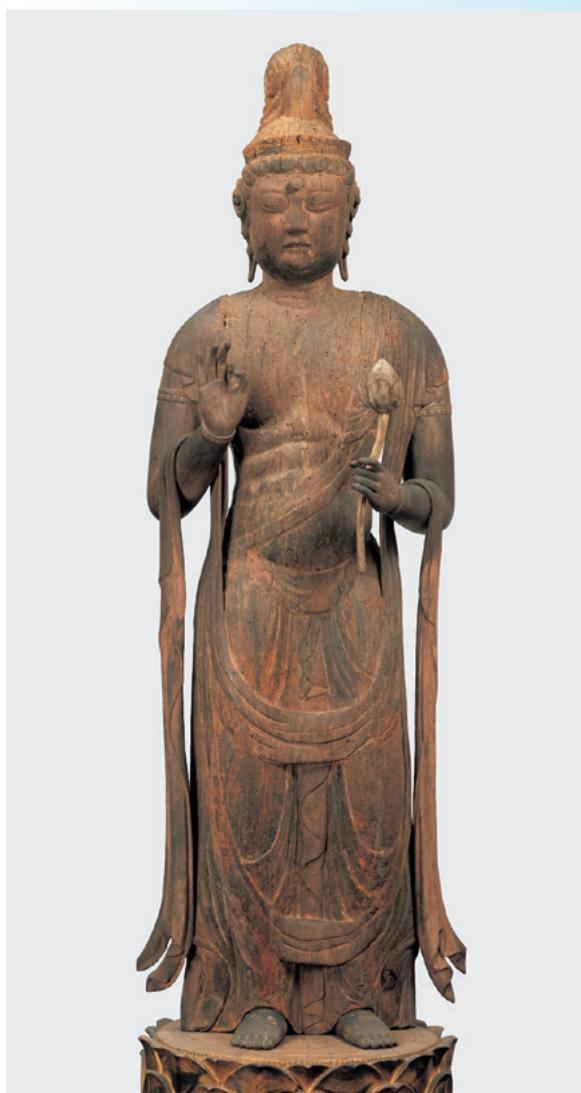
奈良市法蓮町に位置する不退寺の本尊聖観音菩薩立像は、寺伝に在原業平(八二五～八八〇)の作といい、「業平観音」の名で信仰を集めています。令和四年(二〇二二)度、公益財団法人美術院により彩色の剝落止めや、矧目など変色箇所修整を主とする保存修理が実施され、このほど完了しました。

近年の調査に際して、不退寺像は文化庁所蔵(当館寄託)の観音菩薩立像と像高がほぼ一致し、作風が酷似し、腰の捻りが左右対称であることから、もとは一対であり、当初の尊名は不明ながら三尊像の両脇侍であったと考えられるにいたりました。

これらの成果を踏まえ、なら仏像館の名品展「珠玉の仏たち」において不退寺像の特別公開をおこないます。文化庁像とそろって展示するまたとない機会であり、保存修理により面目を一新した不退寺像の姿にご注目ください。



重要文化財 聖観音菩薩立像(奈良・不退寺)



重要文化財 観音菩薩立像(文化庁)

予告

浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展

聖地 南山城

みなみやましろ

— 奈良と京都を結ぶ祈りの至宝 —

7月8日(土)～9月3日(日)

京都府の最南部、奈良市に隣接する地域は旧国名の山城国やましろのくににちなんで、いま「南山城」と呼ばれています。なだらかな山間を木津川が流れる風光明媚な地であり、古来より人とモノが行き交う要衝ようしゅうとして発展してきました。

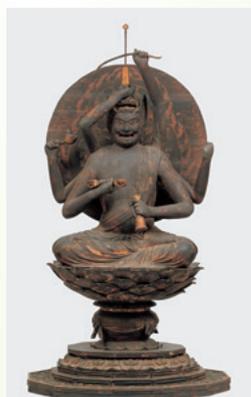
本展では南山城とその周辺地域の寺社に伝わる仏像や神像を中心に、絵画や典籍・古文書、考古遺品などを一堂に展観いたします。本展を通じて多彩な作品の魅力を堪能していただくとともに、奈良や京都との関わりの中から南山城地域が育んだゆたかな歴史や文化について再認識する機会となれば幸いです。



重要文化財 十一面観音菩薩立像 (京都・禅定寺)



重要文化財 四天王立像 (京都・海住山寺)



重要文化財 愛染明王坐像 (京都・神童寺)



国宝 阿弥陀如来坐像 (9軀のうち その8) (京都・浄瑠璃寺)

『仏師快慶の研究』 刊行



奈良国立博物館 編
思文閣出版刊
定価77,000円(税込)
B4判上製函入・606頁
ISBN978-4-7842-1969-8

奈良国立博物館編『仏師快慶の研究』を令和五年(二〇二二)三月に刊行しました。本書は、平成二十九年(二〇一七)に開催した特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」による研究成果を収載するとともに、信仰上の理由や保存状態の問題から展覧会への出品が実現しなかった作品についても、その後に実施した調査やX線CTスキャン撮影等によってもたらされた情報や知見を盛り込んでいます。現代を生きる我々の共感をいまもなお呼び起こし、仏の規範とされつつける快慶芸術の魅力とその本質、そして仏師という存在の実態に迫ることを目指した一書です。

感染症拡大の影響などもあり、編集作業には少なからず遅延が生じましたが、無事に刊行にこぎつけることができました。本書が快慶および鎌倉時代の仏像彫刻研究の進展にわずかながらでも寄与し、多くの読者の皆様が快慶作品の魅力を堪能してくださることを願っています。

ならはく教育普及スペース 「ちえひろば」のオープンに向けて

当館学芸部研究員 翁 みほり

ご存知の方も多いと思いますが、当館は仏教美術を中心とした文化財を展示する博物館です。けれど、仏教美術というと、「難しそう」「敷居が高い」とイメージされがちです。そうしたイメージを取り除き、より幅広い層に仏教美術に親しんでもらうために、無料ゾーンである当館の地下回廊の一角に、仏教美術を楽しく学べる体験学習スペースを新たに設けました。そのスペースの名称は、ならはく教育普及スペース「ちえひろば」です（図1）。

「ちえひろば」という名称は、当館の教育普及キャラクター「ちえひろ丸」（図2）にちなんでいます。「ちえひろ丸」のモデルとなったのは、館蔵品の重要文化財「文殊菩薩像」（南北朝時代 建武元年「一三三四」）です。「三人寄れば文殊の知恵」ということわざもあるように、文殊菩薩は知恵を司るほとけです。「ちえひろ丸」は、



図1 ならはく教育普及スペース「ちえひろば」

文殊菩薩をモデルにしたキャラクターという点で、「知恵が広まる」という意味から、その名前がつけられました。そして、ならはく教育普及スペースは、人びとが集い、仏教美術への学びや知識が広がっていく始まりの場になるように、という願いを込めて、「ちえひろば」と名付けました。

ならはく教育普及スペース「ちえひろば」は、令和五年の五月頃より、正式にオープンする予定です。「ちえひろば」では、文化財のレプリカ（複製品）を活用したワークショップも定期的に開催することを計画しています。その一つが、裸の仏像のレプリカに服を着せるワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」です。これは、当



図2 ちえひろ丸

館所蔵の「阿弥陀如来立像（裸形）」のレプリカに服を着せて、如来のほとけがどのように服を着ているのか学ぶワークショップです。実は、このワークショップは、昨年の夏に当館の東新館にて開催した子ども向け展覧会、わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の会場においても開催しました（図3）。このワークショップは大変好評で、「はっけん！ほとけさまのかたち」の展覧会が終了した後、継続的に開催してきました。意外なことに、子どものみならず、大人も大勢参加して頂いています。

また、そのほかにも、絵巻物のレプリカを用いたワークショップも開催する予定です。館蔵品の国宝「地獄草紙」や国宝「群邪絵」、朝護孫子寺蔵の国宝「信貴山縁起絵巻」をそれぞれ巨大な絵巻物に仕立て、それらを用いて当館のボランティアが参加者に読み聞かせをするほか、本物の絵巻物と同じサイズの絵巻物のレプリカに実際に触れもらいながら、昔の人びとがどのようにして絵巻物を鑑賞していたのかを体験してもらうという内容のワークショップです。現在、当館の職員や、ならはくボランティアが開催に向けて準備を進めているところです。

ならはく教育普及スペース「ちえひろば」におけるワークショップ等の開催情報は、当館の教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」や当館のツイッターで今後発信していく予定です。ぜひ開催情報をチェックし、ワークショップ等に参加して仏教美術について楽しく学んで頂けたら幸いです。



図3 ワークショップの様子

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和5年3月21日(火)～

彫刻

【第1室】

阿彌陀如来坐像 個人
観音菩薩立像 文化庁
不動明王立像 正智院

天部形立像 法明寺

蔵王権現立像 当館

役行者坐像 当館

善導大師坐像 念佛院

尼藍婆・毘藍婆坐像 西南院

【第2室】

阿闍如来坐像 西大寺

釈迦如来坐像 東慶寺

文殊菩薩坐像 薬師寺

毘沙門天立像 如法寺

侍者坐像 当館

【第3室】

阿彌陀如来坐像 当館

宝冠阿彌陀如来坐像 安楽寿院

阿彌陀如来坐像 現光寺

如来坐像 5/16

阿彌陀如来立像 法徳寺

阿彌陀如来立像 当館

阿彌陀三尊像 善集院

【第4室】

乗師如来坐像 当館

十一面観音菩薩立像 霊山寺

如来立像 個人

如意輪観音菩薩坐像 当館

諸尊仏龕 寂照寺

【第5室】

誕生釈迦仏立像 正眼寺

誕生釈迦仏立像 悟真寺

誕生釈迦仏立像 当館

菩薩半跏像 5/16

菩薩立像 神野寺

観音菩薩立像 法起寺

観音菩薩立像 法徳寺

観音菩薩立像 興福院

観音菩薩立像 法隆寺

観音菩薩立像 観心寺

観音菩薩立像 金剛寺

仏手 新薬師寺

如来坐像 当館

誕生釈迦仏立像 個人

二仏並坐像 当館

菩薩立像 個人

十一面観音菩薩立像 個人

力士立像 個人

如来立像 光明寺

如来坐像 当館

方形独尊坐像博仏(中国出土) 当館

三尊博仏 南法華寺

六角形博仏(伝三重県天華寺跡出土) 当館

塑像片(奈良県定林寺出土) 当館

火頭形三尊博仏(伝橘寺出土) 当館

小型独尊博仏(三重県夏見廃寺出土) 当館

塑像断片(迦楼羅頭部ほか) 5/16

(奈良県川原寺裏山遺跡出土) 当館

明日香村教育委員会

塑像断片(天部・僧形像ほか) 福命寺

(滋賀県雪野寺出土) 福命寺

【第6室】

増長天立像 当館

広目天立像 興福寺

薬師如来立像 元興寺

如来立像

阿彌陀如来坐像 当館

薬師如来坐像 海住山寺

宝冠阿彌陀如来坐像 5/16

当館 5/16

神野寺 5/16

法起寺 5/16

法徳寺 5/16

興福院 5/16

法隆寺 5/16

観心寺 5/16

金剛寺 5/16

新薬師寺 5/16

如来坐像 当館

誕生釈迦仏立像 個人

二仏並坐像 当館

菩薩立像 個人

十一面観音菩薩立像 個人

力士立像 個人

如来立像 光明寺

如来坐像 当館

方形独尊坐像博仏(中国出土) 当館

三尊博仏 南法華寺

六角形博仏(伝三重県天華寺跡出土) 当館

塑像片(奈良県定林寺出土) 当館

火頭形三尊博仏(伝橘寺出土) 当館

小型独尊博仏(三重県夏見廃寺出土) 当館

塑像断片(迦楼羅頭部ほか) 5/16

(奈良県川原寺裏山遺跡出土) 当館

明日香村教育委員会

塑像断片(天部・僧形像ほか) 福命寺

(滋賀県雪野寺出土) 福命寺

【第7室】

金剛力士立像 東大寺

光背(二月堂本尊所用) 東大寺

【特別公開】

聖観音菩薩立像 不退寺

観音菩薩立像 文化庁

大威徳明王騎牛像 当館

閻魔王坐像 金剛山寺

天津皇子坐像 薬師寺

伊豆山権現立像 当館

大将軍神坐像 5/16

蔵王権現立像(五軀) 大将軍八神社

十二神将立像(子、丑、寅、卯、辰、巳) 大峯山寺

二十八部衆立像 当館

持国天立像・増長天立像 法徳寺

天部形立像 個人

【第12室】

二天王立像 室生寺

毘沙門天立像 高尾地蔵堂

帝釈天坐像 室生寺

毘沙門天立像 当館

【第13室】

【特別公開】

金剛力士立像像内納入品 金峯山寺

阿彌陀如来立像 浄土寺

菩薩面(三面) 浄土寺

破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

珠玉の仏教美術

西新館

【絵画】

令和5年4月22日(土)～6月4日(日)

観音経絵 本土寺

長谷寺縁起(三巻本) 中・下巻 長谷寺

地蔵菩薩像 知恩院

矢田地蔵縁起 金剛山寺

天田地蔵縁起 当館

行基菩薩像 唐招提寺

行基菩薩行状絵伝 第一・二幅 家原寺

聖徳太子二童子像 観音寺

聖徳太子絵伝 当館

聖徳太子絵伝 談山神社

釈迦八相図 大福田寺

仏涅槃図 長命寺

仏涅槃図 京終地方西側町自治会

【書跡】

令和5年4月22日(土)～6月4日(日)

類秘抄 当館

雑筆集 当館

不動護摩次第 当館

西大寺伝法灌頂私記末 当館

法華経(金峯山経塚出土) 金峯山寺

法華経(金峯山経塚出土) 金峯神社

金光明最勝王経(紫紙金字) 当館

華嚴経卷第二十四(二月堂焼経) 当館

仏母大孔雀明王経(中尊寺経) 金剛寺

十誦律卷第四十六(神護寺経) 慈眼寺

五苦章句経(紺紙金字) 当館

増一阿含経卷第五十(善光朱印経) 薬師寺

大般若経(安倍小水麻呂願経) 慈光寺

【考古】

令和5年4月22日(土)～6月4日(日)

縄文・弥生・古墳の造形

深鉢形土器 当館

(伝青森県出土・伝茨城県出土) 当館

土偶(山形県杉沢遺跡出土) 当館

土偶(伝青森県出土) 当館

壺形土器・甕形土器・水差形土器 (奈良県唐古遺跡出土) 当館

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

銅鐸(静岡県浜松市出土) 当館

銅矛(愛媛県四国中央市出土) 当館

儀仗形埴輪(奈良県石見遺跡出土) 当館

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

盛装男子埴輪(伝群馬県出土) 当館

犬形埴輪・馬形埴輪・武人埴輪他 (伝茨城県東海村出土) 当館

勾玉 当館

(奈良県珠城山第三号墳出土) 当館

須惠器器台(奈良県二塚古墳出土) 当館



銅鐸(静岡県浜松市出土) 当館

塔の考古学

◎石製相輪・風鐸(奈良県山村廃寺出土) 円照寺

◎粟原寺伏鉢 談山神社

◎瓦塔(静岡県浜松市出土) 当館

◎塔鎮壇具(奈良県元興寺塔跡出土) 元興寺

◎塔鎮壇具(奈良県靈安寺塔跡出土) 当館

◎塔本塑像断片(奈良県薬師寺出土) 薬師寺

鬼瓦(奈良県秋篠寺西塔跡出土) 個人

軒丸瓦・軒平瓦・平瓦 当館

(春日東塔・西塔跡出土) 個人

多宝塔磚仏 個人

泥塔(宮城県多賀城跡出土) 多賀城市教育委員会

緑釉円塔 個人

泥塔経(伝鳥取県智積寺跡出土) 当館

宝篋印泥塔(三重県松坂市出土) 個人

滑石製宝塔形経筒 当館

◎経筒(伝福岡県出土) 当館

宝塔文軒丸瓦(伝西琳寺出土) 当館

宝塔文軒平瓦 個人

工藝

令和5年4月22日(土)～6月4日(日)

舍利容器 当館

當麻寺西塔相輪心柱納置舍利容器 當麻寺

棺形舍利容器 当館

宝篋印塔 当館

銀製層塔形舍利容器及び金製内容器 当館

宝塔形舍利容器 当館

◎三角五輪塔 浄土寺

◎五輪塔嵌装舍利厨子 不退寺

◎密観宝珠嵌装舍利厨子 般若寺

能作性塔 当館

◎四方殿舍利厨子 能満院

舍利厨子 施福寺

◎首懸駄都種子曼荼羅厨子 当館

◎火焰宝珠形舍利容器 海龍王寺

◎透彫舍利容器 西大寺

◎鉄宝塔 西大寺

◎火焰宝珠形舍利容器・五瓶形外容器 (鉄宝塔内納置) 西大寺

三鈷杵 当館

三鈷杵 当館

三鈷杵 当館

◎三鈷鏡 円福寺

◎四大明王五鈷鈴 当館

宝珠鈴 当館

◎密教法具 敬島神社

◎三鈷柄剣 鞍馬寺

◎種子華鬘 当館

◎宝相唐華草文透彫華籠 神照寺

王子形水瓶及び承盤 当館

王子形水瓶 当館

仙蓋形水瓶 当館

布薩水瓶 当館

信貴形水瓶 当館

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※◎Ⅱ国宝、◎Ⅱ重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合がございます。

◆「奈良博メンバーシップカード」のご案内

多くのお客様にご利用いただいております「奈良博プレミアムカード」は、令和5年4月1日(土)より「奈良博メンバーシップカード」に生まれ変わりました。価格は1年間4,500円(奈良博だよりの送付を希望される場合は5,000円)となります。お得な特典内容は奈良博プレミアムカードと変わりませんので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願いたします。販売方法などの詳細は当館公式ホームページをご確認いただくか、当館観覧券売場でお尋ねください。

現在有効期限内の「奈良博プレミアムカード」をお持ちの方は、券面に記載の有効期限まで引き続きご使用いただけます。

また、国立博物館4館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」は引き続き販売しております。

「奈良博メンバーシップカード」への変更にとまない、新規購入キャンペーンを実施いたします。4月1日(土)より4月28日(金)の間、奈良博メンバーシップカードをご購入いただいた方を対象に、当館オリジナルグッズ3種類(非売品)の中から好きな1点を贈呈いたします。ぜひこの機会にお買い求めください。



オリジナルグッズ① 公式キャラクター「ざんまい」切り絵型紙



オリジナルグッズ② 「ざんまい」切り絵型紙 チケットフォルダ



オリジナルグッズ③ 中尊寺経 一筆箋・クリアファイル・絵葉書 3点セット

【表紙解説】 聖観音菩薩立像

重要文化財 木造 彩色 像高一九一・〇 平安時代(十世紀) 奈良・不退寺

等身大を超える菩薩像で、不退寺の本尊としてまつられる。広葉樹材の一木造りで、左上膊部や天衣の一部をふくめて一材から彫り出し、背中から内割り(うちわぎ)をほどこして蓋板をあてる。宝冠、両耳上から垂下する飾り紐、光背(こうはい)いずれも写真では取り外している)などは後補だが、これらは中世にさかのぼる可能性があり、表面の白下地彩色も同じころに補われたと推測される。

伏目の表情や腰高で細身のプロポーション、鎧を立てた衣のひだの彫りから、制作は十世紀半ばごろと推定される。高く結い上げた髻、耳の上で渦を巻く鬘髪、矢羽根をあしらった天冠台の意匠など、細部の装飾的かつ個性的な表現もみどころである。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員) 撮影 西川 夏永(当館学芸部資料室員)

※名品展「珠玉の仏たち」にて、3月21日(火・祝)～5月14日(日)に展示

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■4月16日(日)

「奈良の山々と美術」

松井 美樹(当館学芸部研究員)

吉野、葛城、笠置、信貴山… 奈良を囲む山々は、仏教修行の場でもありました。平安から鎌倉時代を中心に、そこに祀られた神仏と美術についてお話します。

[受付期間 3月27日(月) 10:00~4月15日(土) 17:00]

■5月21日(日)

「百済観音の世界」

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

2020年3月から東京国立博物館で開催されるはずだった特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」。残念ながらコロナ禍のために中止となり、幻の展覧会となってしまいました。同じく中止となったその記念講演会を、ここに“初演”します。

[受付期間 5月1日(月) 10:00~5月20日(土) 17:00]

■6月18日(日)

「香の美術」

伊藤 旭人(当館学芸部研究員)

香は仏教伝来とともに日本へもたらされました。香を焚くことは、ほとけを供養する基本的な行為のひとつです。今回は奈良時代に制作された柄香炉(手持ち型香炉)を中心に取り上げ、その見どころを紹介するとともに、当時の焼香の意義についても考えます。

[受付期間 5月29日(月) 10:00~6月17日(土) 17:00]

■7月16日(日)

「家の中のいろいろな虫たちの話」

小峰 幸夫(当館学芸部研究員)

日本には昆虫が3万種いるといわれており、その一部の種がヒトの生活と関わりをもっています。ここでは、ヒトの生活に関わる昆虫のうち、家の中で見られる昆虫の種類や、その生態などを紹介します。

[受付期間 6月26日(月) 10:00~7月15日(土) 17:00]

■8月20日(日)

「文化財の魅力を広めるための挑戦」

翁 みほり(当館学芸部研究員)

文化財の魅力を広めるために、奈良博では様々な取り組みをおこなっています。文化財のレプリカを活用したワークショップやオンライン展示見学の実施など、新たな事業にも取り組んでいます。そうした数々の挑戦について、裏話も交えながらご紹介します。

[受付期間 7月31日(月) 10:00~8月19日(土) 17:00]

■9月17日(日)

「東アジアの仏教絵画を見渡す」

北澤 菜月(当館学芸部情報サービス室長)

日本の仏教絵画史を軸にしながら、関連する中国・朝鮮半島の絵画を見ていきたいと思います。それぞれの時代についてトピックを作ってお話する予定です。

[受付期間 8月28日(月) 10:00~9月16日(土) 17:00]

【時間】 各回とも14:00~15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回90名(事前申込先着順)

※定員に変更がある場合はホームページでお知らせいたします。

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

◆キャンパスメンバーズ

令和5年4月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学(以上、五十音順)

◆奈良国立博物館賛助会

令和5年4月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員7団体、一般会員(団体)14団体、一般会員(個人)103名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー、(株)大和農園ホールディングス、(株)葉風泰夢、結の会

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、(株)ワールド・ヘリテイジ、奈良県有名専門店会

〔個人会員(新規)〕

片山 紀子様 令和4年12月ご入会

名品展「珠玉の仏教美術」

経筒

(伝福岡県出土)

重要文化財
銅製 鑄造
総高41.3cm
平安時代 保延7年(1141)
当館



線刻部分

平安時代後期、末法思想が広がる中、仏教を深く信仰していた人々は霊地や聖地に経塚を築き、経典を地中に埋納した。経筒はその経典を納めるための容器であり、銅製や陶製、滑石製など、様々な材質で作られた。

本品は経塚造営のメッカの一つ、北部九州で出土したとされる銅製の経筒である。短い円筒を4段積み上げて筒身を作っている。蓋は塔の屋根を模した形で、頂部に相輪を立てる。経筒を塔形につくる例はしばしばあるが、これは釈迦の教えを説いた経典(釈迦の遺骨)に見立て、その舍利を塔に納めるイメージから経筒を塔形に仕立てたのだろう。

この経筒の最大の見どころは、筒身の表面に流麗な筆致で彫られた線刻画である。合掌姿の普賢菩薩、薬王・勇施の二菩薩、持国・多聞の二天、中国風の装いの十羅刹女が表され、彼らは法華経や、法華経を読む人々の守護者であるので、経筒にふさわしい図像として選ばれたのだろう。

筒身の銘文からは、保延7年(1141)に埋納されたものであることがわかる。紀年銘のある普賢十羅刹女の図像としてはわが国最古のもので、美術史的にも大変貴重な出土品である。

中川 あや(当館学芸部教育室長)

展示品の みどころ

名品展「珠玉の仏教美術」

行基菩薩行状絵伝

重要文化財
絹本着色
各幅 縦165cm 横80.9cm
鎌倉時代 正和5年(1316)頃
大阪・家原寺

文暦2年(1235)、生駒・竹林寺の行基廟より、遺骨を納めた舍利容器が発見された。行基(668~749)といえは土木事業や東大寺大仏造営に功を挙げ、民衆を救う姿から文殊の化身と讃えられた僧侶だ。灰燼に帰した南都の復興期にあった当時、先駆者の舍利の存在はどんなに人々の励みとなっただろう。高まった行基への信仰を背景に、彼の生家という家原寺で製作されたのが3幅のこの絵伝である。

第1幅には行基の祖先とされる漢の初代皇帝・劉邦の物語、第2幅には行基が建立した数々の寺院、第3幅には大仏造営等の事績や件の行基廟が表される。この内容は正和5年(1316)成立の『行基菩薩縁起図絵詞』に基づいており、絵解き用に絵詞とほぼ同年に描かれたものと考えられる。大きな画面を前に絵詞を読み聴かせる絵解きは、絵巻と違い大勢の人が参加でき、民衆に愛された行基にふさわしい。

4~6月の名品展では第1・2幅、特別展「聖地 南山城」では第3幅を展示する。ぜひあわせてご覧いただき、鎌倉時代の人々のまなざしとともに行基の生涯を追想していただきたい。

松井 美樹(当館学芸部研究員)



第3幅



第2幅



第1幅

■開館日時(4月~6月)

■開館時間 / 午前9時30分~午後5時

※毎週土曜日は午後8時まで

※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 / 毎週月曜日(5月1日)は開館

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイイロIDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

※東新館はエレベーター改修工事のため休館し、令和5年(2023)は春の特別展を開催いたしません。

4月から6月は、西新館の名品展「珠玉の仏教美術」などをお楽しみください。

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車